

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 6 月 23 日

施策No.	22	施策名	安心できる水道水の安定供給
主管課名	上下水道課	主管課長名	杉木清一
関係課名			

施策の目的 【対象】	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	見込み	見込み
①町民 ②来訪者	①人口	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	
	②来訪者数	人	3,850,066	3,689,183	3,713,752	3,600,664		

施策の目的 【意図】	成果指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	目標	目標
①安全で良質な水道水の供給 ②安定した水道水の供給	①町営水道の整備率	%			99.0	99.0		
	②濁度等による苦情件数	件	9	12	32	8	0	0
	③水がおいしいと感じた町民の割合	%			81.8	84.3		
成果指標の把握方法と算定式等	④水がおいしいと町民に告げた人の割合	%			62.6	65.4		
	⑤水道使用料の収納率	%	96.9	96.7	99	99.6		

成果指標設定の考え方	①整備率が高いことは、町営水道水の供給が行き届くと考える。 ②自然災害や事故等による濁度等の苦情件数を減らすことは、安定供給につながる。 ③④おいしいと感じることは、良質な水道水を供給していると考えられる。 ⑤水道料金の収納率が上がることは、安定した水道水の供給につながる。
------------	--

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	1)住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと) ①節水に努める。 ②水道を使用した場合は使用料を納入する。 2)行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) <町> ①安全で良質な水道水の供給 ②安定した水道水の供給 ③適正な水道事業の運営に努める。 <県・国> ①施設整備への補助金交付
-----------------------	---

21年度の
評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較 (現状の水準は?以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

- ① 町営水道の整備率は、99%以上となっている。整備率の目的としては達成されている。
- ② 濁度の苦情件数はH20年に32件あったが、これは自然災害(大雨)によるものであったが、濁度流入対策の工事を行い、H21年に8件と減少したと思われる。
- ③ おいしいと感じる人がH20年に81.8%だったが、H21年には84.3%と2.5ポイント上がっている。要因は、職員によるきめ細やかな管理が実ったものとおもわれる。(塩素濃度等の管理)
- ④ 来訪者がおいしいと感じた割合は、H20年に62.6%がH21年に65.4%と2.8ポイント上がっている。要因は③と同様の理由と、ろ過の過程で極力薬品を使わずにろ過をするよう職員が努力しているため、都会の水よりおいしく感じると思われる。
- ⑤ 水道使用料の収納率がH20年99.0%がH21年99.6%と向上した理由は、納入に対する啓発活動と、徹底した徴収活動を行ったためと思われる。

2) 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

- ① 水道整備率の比較、県(町)平均98.4%であり、本町は99%となっており、高い水準で整備されている。
- ② 水道使用料収納率は、本町は99%となっているので、高い水準となっている。今後も引き続き収納率向上に取りくんでいく。

3) 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

- ① 水道の安定水量(水圧)を望む声がある。
- ② 断水件数(災害・事故・工事)を減らしてほしい。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括

- 1) 猿ヶ京簡易水道の統合事業に取り組んでおり、完成すれば安定した水道水を供給することができる。(H22完成予定)
- 2) 水道維持管理事業により、安心して安定した水道水を供給できた。

3. 政策の課題認識と改革改善の方向

- 1) 濁度の流入排除工事に伴い、自然災害の濁度苦情件数は減ってきたが、今後は漏水(老朽管が原因)による苦情件数が増えてくるのではないかとと思われる。このため、施設改良を計画的に行っていききたい。
- 2) 水道の水圧に関する改善箇所が2カ所ある。1カ所はH22年度に改修予定である。もう1カ所は現在検討中であるがなるべく早く実施したい。
- 3) 石綿管の布設替えが必要である。現在計画的に布設替え工事を実施中である。
- 4) 水道使用料の収納率は年々上昇してきたが、今後は収納率が下がらないように維持していきたい。